

くす通信

第263号
2023年1月1日

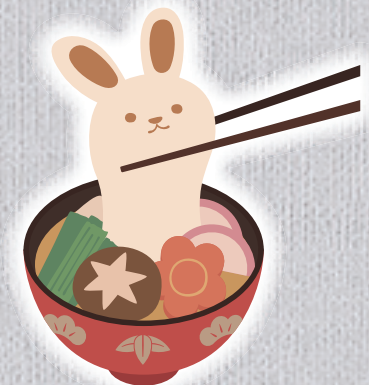
国立病院機構熊本医療センター 発行

眼科より

飛蚊症と網膜剥離について

視能訓練士より

眼の手術後の視力回復について



「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

で元に戻ります。眼内レンズは水晶体と違って調節力が無いので、視力が安定してきた時期に合わせて眼鏡を処方します。

図1では、術後1週間を過ぎてから眼鏡の度数が安定してきているのが分かります。当科では念のために、術後1ヶ月以上経過してから老眼鏡などの眼鏡作成を推奨しています。

白内障手術では視力改善が難しい例

多くの場合手術をすると術前より視力は改善しますが、白内障以外の眼疾患、特に網膜疾患がある人は、他の人よりも網膜の状態が悪いため、手術をしても視力があまり改善されない場合があります。例えば加齢黄斑変性症や糖尿病網膜症などの網膜疾患や、緑内障を併発している人がこれに当てはまります。

網膜疾患を併発している人

白内障の程度と比べて視力低下が進んでいる場合は、網膜に異常がある場合が多いので、眼底検査をして手術が必要かどうかを判断します。網膜疾患が原因で視力が低下している場合は、白内障の手術と併せて網膜疾患に対する治療が必要になってきます。また飛蚊症がある人は、手術をして視界がクリアになった事で手術前よりも飛蚊症が自覚されやすくなります。

緑内障を併発している人

緑内障によって一度失われた視野は、白内障の手術では回復する事ができません。特に中心の視野が障害されている場合は、術後の視力改善が悪い傾向があります。ある程度進行した緑内障の存在が疑われる場合は事前に視野検査などを行ない、見えにくさの原因について良く調べておく必要があります。



視能訓練士から説明!

眼の手術後の視力回復について



眼科 視能訓練士
佐伯祐莉奈
さえき ゆりな

眼の手術後の視力回復について

当院で最も多く行なわれている白内障手術を中心に、眼の手術後の視力回復について説明します。

白内障の手術では、濁った水晶体を取り除いて眼内レンズを挿入するために、角膜や強膜に小さな傷口を作ります。手術をすると翌日から景色が良く見えるようになりますが、傷口は未だ完全に治癒していない状態です。この時期は角膜の膨張などの影響もあり視力が不安定ですが、経過が順調であれば大体1ヶ月ほど

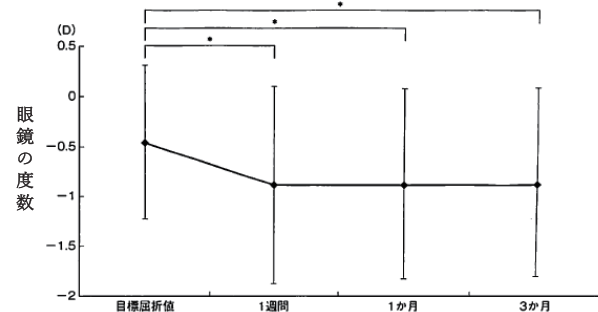
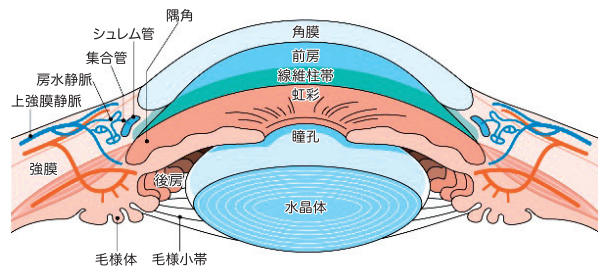
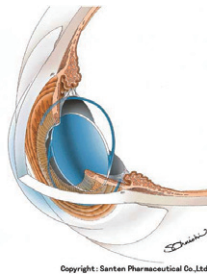


図1 各時期における眼鏡度数の変化

飛蚊症と網膜剥離 について

眼科医師

ゆきのりく
幸野理久



飛蚊症について

「虫やごみのようなものが飛んでいるように見える」
「雲のようなものが浮いているよう、墨を流したように見える」

「変な丸が見える」

このような症状がある日突然に、あるいは、いつの間に
か現れたことに気付いたら
(人によって様々な見え方を
するとは思いますが)これが



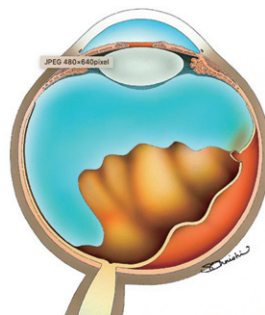
飛蚊症

いわゆる飛蚊症です。あらゆる年齢層に見られる症状ではありますが特に高齢者、近視が強い人ほど多くみられると言われています。飛蚊症は多くの場合加齢に伴う生理的なもので心配となることはありませんが、時に重大な病気の兆候の一つとして現れることがあります。

網膜剥離とは

網膜とは目の奥にある視神経の細胞がたくさん集まったカメラのフィルムの様な役割をする部分です。網膜剥離は加齢や糖尿病網膜症といった病気、事故による目の打撲といった外傷が原因で引き起こされます。多くは網膜の一部に小さな穴が開き、そこから眼の中の水が回り込むことであつという間に網膜が剥がれていきます。剥がれた網膜は時間が経つに連れ徐々にその機能を失っていきます。その後で治療をしても視力や視野はあまり回復しないと言

われています。放置すると失明につながる重篤な病気ですが、早期の治療によって深刻な視力障害を予防できる可能性が高くなります。近年では治療法の発達により網膜剥離による失明の確率は減ってはいますが早期発見、早期治療が必要なことには変わりありません。比較的早期の症状として飛蚊症があります。その他の自覚症状としては「見えにくい部分がある」(視野障害)、「ものが歪んで見える」(変視症)といったものが挙げられます。



網膜剥離

治療

穴が開いて網膜剥離が起きている場合には基本的には手術が必要となります。網膜が剥がれている範囲が狭い場合にはレーザー治療のみでも治療可能な場合もあります。手術では剥がれた網膜を元の位置に戻し、原因となった網膜の穴の周りをレーザーで焼き固め、再び剥がれることがないようにします。網膜剥離が進行している場合は手術をしても視力低下や視野障害、歪みの症状、飛蚊症が改善しない場合もあります。そのため早期発見・早期治療が大切となります。病気が原因ではない飛蚊症や手術が必要ではない網膜剥離もありますが、発症が急激で程度のひどい飛蚊症は緊急手術が必要となることもありますので眼科を受診されることをお勧めします。

眼科の紹介

眼科は感覚器センターの1部門として、他の診療科とも協力しながら診療を行っております。外来診療は、眼科医師3名、視機能訓練士2名、看護師3~4名、医師事務補助者1名で行っています。視力、眼圧、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、視野検査といった基本的な検査はもちろん、疾患に応じた他の眼科精密検査も行います。また、場合によっては、血液検査やCT・MRIといった検査も組み合わせて行うこともあります。入院診療に関しては、白内障手術が中心とはなりますが認知症や精神疾患等で個人病院では手術できない方を多く引き受けていることが当院の特徴です。その他、眼の外傷や入院での薬物治療が必要な方の入院を引き受けております。

国立病院機構熊本医療センター

- 診察日 月曜日~金曜日
- 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始(12月29日~翌年1月3日)
- 受付時間 8:15~11:00
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5
TEL 096(353)6501(代表)
FAX 096(325)2519
HP <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※形成外科のみ受付は、水曜日以外の13:30~16:30となります。

※一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。